

磐田を 知りたい！ 調べたい！

磐田の戦国武将物語

徳川家康没後 400 年を迎えた 2015 年の今、家康ブームが再燃しようとしています。そのような中、徳川家康にまつわる伝説はこの磐田市にも数多く残っています。市内各地に伝わる徳川家康伝説や今川、武田、豊臣などの戦国武将の物語、伝承を集めてみました。

1. 中泉御殿跡 (磐田市中泉字御殿)

磐田市中泉字御殿の「中泉御殿」は、徳川家康が築いた休息所（『遠州中泉古城記』）で、鷹狩りを楽しんだり（『家忠日記』）、関ヶ原の戦いや大阪冬の陣の際にも立ち寄っていたと言われていいます。関ヶ原の戦いで勝利し、遠江支配を復活した徳川氏の直轄領（天領）として、伊奈忠次により東側隣接地に中泉陣屋が築かれました。

※磐田駅南側に「御殿遺跡公園」があります。

『中泉町誌』『中泉代官』『静岡県の中世城館』『御殿・二之宮遺跡発掘調査報告書』
『中泉町土地宝典』

2. 家康家臣・本多平八郎

徳川家康は、元龜 3（1572）年 10 月、武田信玄の軍勢を迎え討とうと三ヶ野坂に陣を構えました。この前哨戦を指揮したのが本多平八郎忠勝でした。この時、平八郎は大日山（現在の大日堂辺り）の大松に上り、袋井方面の敵状を偵察しました。この松が“本多平八郎物見の松”と言われています。この松は現在残っていません。

『磐田ものがたり』『磐田ことはじめ』第 1 編

3. 二俣城主・松井氏

永禄 3（1560）年、今川義元の重臣で二俣城主であった松井宗信は桶狭間の戦いで戦死しました。首は家臣により戦場から持ち帰られ、菩提寺である天龍院に手厚く葬られました。現在は本堂西側墓地の一面に供養塔があります。

宗信の奮戦した忠節を賞され、所領はそのまま嫡子宗恒に受け継がれています。松井氏の所領は豊岡地区のほとんどを占め、松井氏はその後武田信玄の家臣となっています。

『豊岡村史』『豊岡村百話』『遠江武将物語』

4. 野部越後守当信 (まさのぶ)

永安寺の『野辺家系図』と『由緒書』によれば、「尾張の織田越後守当信という武士が、野辺庄を与えられて野辺氏を名乗り、また、信秀（信長の父）の一字を賜って秀当と改名した」と伝わっています。その後、馬伏塚城主（袋井市）となりますが、天正 2（1574）年 6 月 22 日、武田勝頼に攻められ戦死したとされます。永安寺にその供養塔が残っています。

『豊岡村史』『静岡戦国武将墓巡り』

5. 一言坂の戦い、挑燈野（ちょうちんの）の戦い

豊田地区には、武田氏との最前線基地であったため、徳川方関連や武田方関連の話が伝わっています。

一言坂の戦いは、三方原の戦いの70日前、元龜3（1572）年10月13日に起きました。武田信玄軍の圧倒的な強さに家康側が退却した戦いでした。この退却戦で本多平八郎は見事な活躍をし、武田軍から「家康に過ぎたるものが二つあり 唐（から）の兜（かぶと）に本多平八郎」と謳われたと伝えられています。

一方、挑燈野の戦いは天正2（1574）年6月以降の武田勝頼と徳川家康が池田の地で戦った戦いの一場面です。この戦では家康側が途上、湿地帯に挑燈を持たせた人形を立たせる作戦をとり、家康軍がそこにいると思い、武田側が入り溺死したと伝わっています。この戦いから、この地は「挑燈野」と呼ばれるようになりました。

※従来、この二つの戦いは一連の場面である（『ふるさと豊田』）と言われてきましたが、近年の研究では年代が違う戦いであるとされています（『豊田町誌』通史編）。

『ふるさと豊田』改訂版 『豊田町誌』通史編
『城と武将と合戦と』『三方原の戦い』『定本徳川家康』

6. 匂坂六郎五郎長能（ながよし）

匂坂長能は、天文4（1535）年今川氏輝より、信濃の国人・北遠の国人天野氏に備えるため、二俣昌長に代わって中尾生城（なかびうじょう・浜松市天竜区龍山）在番（交替勤務）を命じられます。

天文20（1551）年には長沢城、天文23（1554）年には岡崎城と、尾張織田氏を始めとする反今川勢力に備え、今川義元により在番を命じられ、さらには永禄4（1561）年に徳川家康が独立すると、70歳という老齢にもかかわらず牛久保城（愛知県豊川市）在番を命じられるという、今川氏から最前線で働くことを期待され続けた人物でした。

匂坂長能は永禄9（1566）年に亡くなりますが、その子匂坂政信・吉政兄弟は、織田家に仕え、姉川の戦いで、朝倉方の勇将・真柄直澄を討取る戦功を挙げています。

『遠江国匂坂一族』『徳川家臣団～子孫たちの証言～』
「磐南文化」第16号

※市内にある「匂坂」という地区からこの武将が誕生しています。

7. その他の物語、伝承

徳川家康・・・家康と渡船の特権、池田棧敷、帯金姓の由来
豊臣秀吉・・・太閤山
真田幸村の娘・・・こひめっこ

『豊田町誌』民俗文化史別編Ⅱ（p 694～p 702）
『天竜川流域の暮らしと文化』下（p 699～p 715）
『年中行事と昔ばなし』

このほか、詳細にお知りになりたいときには、レファレンス（相談）カウンターまでお尋ねください。